

「decadence」／インクジェットプリント

写真学科
酒井孝彦

decadence

Department of Photography
SAKAI Takahiko

私はここ1年強、東京のスナップを撮り貯めています。

東京のあらゆる局面を撮り進むうちにあらゆるサブカルチャーにも出会い、その中でGOTHという文化と出会いました。

GOTHについてはあらゆる方向にも枝分かれしていくのでここでは省きますが、その中のひとつとしてこの画像に登場してる様な人達のパーティー的イベントもあり、その集まりも何かの確固たる「目的」性がある訳でもありません。

強いて言うと「集まる事」。その上で集団で「何かひとつの目的に向かって」と云う事もありません。

ですが集う人達は自己の衣装に凝り、競います。

非常にコアなサブカルチャーの世界（ソサエティ）の中で咲ける花と云う事です。

それら彼等なりの「自己表現」と、私側の「捉え方」とのお互いのコラボレーションとして、各種イベントでのアクト（暗黒舞踏などの実演）を撮影したり、背景を設定して撮る側／撮られる側お互いの演出を織り交ぜ撮影致しました。

これら先の見えない退廃的な文化も、この東京に有ると云う事や、その画像を今や廃盤となったポラロイドタイプ55のネガフィルムと合成させ、フィルム上の薬剤のランダムな流れとからませて「終焉、黄昏感」を表現した一連の作品制作の中から4枚を選びました。

私自身、広告写真という仕事柄、きっちりした画像制作を普段してますがポラロイドの持つアナログ感で上記イメージを表現するためポラロイドネガ下部の不定形さ、処理剤の滲み出し感もそのままフレームでありながら作品の一部として使いました。







